



## 全国で4万2000人超が挑戦 平成24年度第2回検定を実施



日本語の総合的な運用能力を測る「日本語検定」(略称・語検)の平成24年度第2回(通算第12回)検定が、11月9、10の両日行われました。全国104の一般会場と、海外7会場を含む890の準会場とで実施され、合わせて4万2602人が受検しました。

「語検」は、敬語や文法、語彙(ごい)、表記など6領域について、正しく使う能力を測るものです。1級から7級まで、小学生から社会人まで幅広い年齢層を対象としています。検定結果については、12月上旬にホームページで合否速報が発表され、その後合否通知が發送されます。

受検申込者は、1級(社会人レベル)421人、2級(大学生~社会人レベル)4368人、3級(高校生~社会人レベル)1万4359人、4級(中学生・高校生レベル)1万1713人、5級(小学校高学年・中学生レベル)7129人、6級(小学校中・高学年レベル)3447人、7級(小学校低・中学年レベル)1165人。最年長者は96歳、最年少者は5歳でした。

## 日本女子体育大学では

東京・世田谷区北烏山の住宅街にある日本女子体育大学では9日、体育学部の学生33人が団体受検しました。就職氷河期と言われる中で、12年連続90%超という高い就職率を維持している同学のキャリアセンターが、就職活動に向けての学生の資格取得と適切な日本語の使い方や書き方を理解してもらうために、受検を呼び掛けました。

同学では、在学中の2級合格を目標に据え、平成20年度第2回検定から毎回団体受検しています。この日は、授業を終えた学生が三々五々集まり、午後5時から検定がスタート。監督官が注意事項を説明したあと、開始の合図で2~4級に挑戦しました。

日本女子体育大学では、いずれも必修科目の「国語表現I」(1年生対象)で4~6級、「国語表現II」(2年生対象)で3級レベルの問題を講義の始めにプリントを使って自習し、最終日には確認のためのテストを行っています。担当の影山陽子准教授によれば、適切な日本語表現を身につけるためのきっかけ作りとして、「運動前に行うストレッチのような感覚で、検定問題のプリントに取り組もう」と学生に助言しているそうです。



## 東京23区の一般会場では

東京23区では、新宿・代々木の山野美容専門学校を一般会場に検定が実施され、社会人を中心に約1000人が1級から7級に挑戦しました。若い女性や中高年の夫婦らが目立ち、午前と午後の2部に分かれて受検しました。

今春の受検で準1級の認定を受けている目黒区の40歳代の女性は、「どうせやるなら、どうしても1級の認定を受けたい」と、今回5度目の1級に挑戦。「ほかの検定でも1級合格を目指している」としたうえで「日本語検定でも1級の認定を絶対あきらめたくない」と決意を語りました。

「2級は問題集などを勉強すれば何とかできるが、1級はそう簡単にはいかない。いろいろな本を読んだり、難しい言葉などがあれば辞書を引いて調べたりするよう心掛けている」と日ごろの生活を振り返り、「日本語検定の面白みは、受検することによって言葉について自分が知らない新しい発見があること。とにかく日本語は奥が深い」と話し、受検会場に向かいました。

